

Case 19-2007: A 19-Year-Old College Student with Fever and Joint Pain
(New England Journal of Medicine 2007;356:2631-7)

#1 発熱

少なくとも入院 3 日前から 37°C~38°C 台の発熱が続いている。

#2 上気道症状

#2-1 咽頭痛

入院 11 日前からのどの痛みを訴えており、消炎剤(Viscous xylocaine)では軽快せず、その後増悪している。
Prednisone でやや改善しているものの入院時にも痛みがある。

#2-2 扁桃腺の発赤・腫脹

扁桃腺が腫れて嚥下困難を生じているようだが、prednisone 処方後は腫れが収まってきている。

#2-3 鼻づまり、耳の痛み

鼻づまりは入院 1 週間前から出現し、pseudoephedrine ではあまり効果がないが prednisone で軽快している。
のどの痛みと嚥下困難と同時に耳の痛みを訴えている。

#3 口内炎・アフタ性潰瘍

入院一週間前から口腔粘膜に潰瘍を指摘されている。

#4 圧痛を伴う頸部リンパ節腫脹

入院一週間前から両側の浅頸リンパ節腫脹があり、圧痛がある。

#5 腹痛

入院 3 日前から下腹部痛があり、嘔気、嘔吐を伴っている。ondansetron 処方後には改善しているが、入院当日にも触診上圧痛がある。痛みの部位は中央から右下腹部→右上腹部と移動している。

#6 関節痛

入院当日に右肘、左足首の疼痛が出現している。右肘は腫れており、左アキレス腱には圧痛がある。

#7 蕁麻疹

Ceftriaxone 投与 10 分後に頸部、腹部に蕁麻疹が出現している。

#8 低血圧

もともと血圧が低めかもしれないが、入院時には生理食塩水 3ℓの点滴にもかかわらず 61/39mmHg まで低下し、dopamine hydrochloride の点滴を行っている。